

一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会
令和6年度 第6回常務理事・部長会 議事録

開催日時：令和7年3月27日（木）18時00分～19時10分

開催場所：Zoomによる会議

出席者：岡村、山口、酒井、森本、市川、渡邊、荻谷、菊地、日比

欠席者：乾、澤野

議長：岡村（会長）

議事録：日比（庶務部長）

報告事項および議題

1. 関係各所からの報告【日臨技・県・厚労省・その他】〔岡村会長〕：資料配布済み
以下の資料内容について確認をお願いし、一部内容に補足説明を行った。

- ① 厚労省より、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則等の一部を改正する省令」の公布について
- ② 滋賀医科大学医学部付属病院より、滋賀医科大学医学部付属病院検査部 臨床検査技師の募集について
- ③ 岐阜医療科学大学より、医療 MaaS 車両への会の名称掲出依頼があり、災害用車両へのロゴの関与につき了承した。
- ④ 日臨技より、会費の送金等の資料について
- ⑤ 日臨技より、【第74回日本医学検査学会】一般検査部門アンケートについての依頼
- ⑥ 岐阜県健康福祉部より、岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会委員の推薦依頼があった。岐阜県としては肺がん部会と大腸がん部会が関与しており、肺がん部会は金森先生から酒井先生へ、大腸がん部会は山田先生に継続依頼することになった。ただし、山田先生は3期連続のため令和8年度を以って交代の意向である。
- ⑦ 岐阜県糖尿病対策推進協議会より、全国糖尿病週間における協賛について（お礼）
- ⑧ 菊地先生より、中部圏支部内連絡会議の議事録
- ⑨ 山口副会長より；中部圏支部医学検査学会資料について

2. 中部圏支部医学検査学会について〔山口副会長、森本学術部長〕

【決定事項】

<開催日>

2026年10月31（土）～11月1日（日）（10月30日は準備日）

<会場>

長良川国際会議場

<実行委員>

- ・ 学会長：森本剛史（松波総合病院）
 - ・ 副学会長：菊地良介（岐阜大学医学部附属病院）、長屋麻紀（岐阜県総合医療センター）
 - ・ 実行委員長：帖佐光洋（修文大学）
 - ・ 事務局長：山口明彦（中部国際医療センター）
 - ・ 会計：荻谷美里（澤田病院）
 - ・ 学術：石田秀和（岐阜大学医学部附属病院）
 - ・ 会場担当：上野嘉彦（岐阜大学医学部附属病院）
 - ・ 記録係：直井晶子（久美愛厚生病院）
 - ・ 広報：林淳司（メディック）
- （副実行委員長、展示担当、情報交換会担当は選任中）

【予算作成について】

岐阜県の補助金申請に必要な予算書の作成は担当者と協議中

①収入

＜日臨技からの前渡金について＞

- ・ 会員数×1000 円が支給される（上限 1000 万円）
- 前回の愛知県では 8,782,000 円支給されたそうです
概ね変動は少ないため、これに近い金額が支給される

＜助成金について＞

- ・ 岐阜県イベント・コンベンション誘致推進事業費補助金
- 参加者×2000 円の助成金が岐阜県より補助される（900 名参加で 180 万円の補助）
ただし、2025 年 6 月までに申請書を提出する必要あり

→現在これに向けて事業計画書と予算書を作成中であるが、担当者によると輪番制で開催される場合は助成されない可能性があるとのこと。申請は受理されたが助成を受けられるか否かは担当者との協議による。

- ・ 岐阜市コンベンション開催事業助成金

岐阜県を含む 10 県以上の県から参加することで 20 万円の補助（中部圏以外の 4 県からの参加者が必要）（シャトルバスの助成金（5 万円）はこれに含まれる）

＜企業からの協賛金＞

- ・ 現在リスト作成中であるが、昨今はあまり期待できない状況（2019 年は 74 社で 250 万円という記録）

→企業の予算の関係である程度早めに動く必要があるため、来年度に各病院の理事の方々に協力していただく必要があります。目標は 200～300 万円程度

- ・ 愛知県は約 60 社の協賛で 450 万円程度だった
- ・ 三重県は目標として 25 社としているがなかなか厳しい様子だそうです

<参加費について>

- ・前学会参加者 728 名（ただし、台風のためキャンセル多数）
- ・今年度愛知県の支部学会 1300 名
- ・来年度の三重県の支部学会目標 800 名

→以上を加味し岐阜県の参加者推定は 800～900 名

支部医学検査学会細則により学会参加費は 5000 円で固定

概ね 400～450 万円

②支出

<コンベンション委託費用について>

委託先や委託内容の決定はまだ先でよいが、予算作成には必須なため見積りだけ、前回と同条件で依頼中。まず前回依頼した「コームラ」と「B-D00」に依頼中。

会場設営費用（企業展示会場含む）、PC や机などの物品のレンタル費用、運営費用（専門スタッフ人件費）、抄録集作成

日臨技よりコンベンション委託費用について制限あり（上限 1,000 万円まで）

愛知県で 1000 万円だったため、800 万円前後が妥当？

（三重県は現在 700 万円前後）

→前回依頼した「コームラ」の見積もりは 1,500 万円程（シャトルバス代込み）である。

<会場費用>

長良川国際会議場見積り金額

¥2,263,940（前回と同条件の場合の見積り金額）

<会場移動費用（シャトルバスやタクシーなど）>

開始時間や終了時間に合わせて、シャトルバスを学会で運行させた方が望ましい。

前学会は 2 日間で 786,500 計上されていた。

ただし、これらはコンベンション委託費用に含めるかは検討が必要

→「コームラ」の見積もりは 130 万円程であるが、「コームラ」に委託せず直接バス会社に依頼する方法もある。（検討事項）

<人件費>

会議費用は総支出の 5～10%以内に抑える必要あり（1500 万円の総支出であれば最大で 150 万円）

その他実務委員や講師等の当日人件費や交通費

<ランチョンセミナー>

ランチョンは基本的に企業協賛と相殺させる。

【収支に関して】

①収入

- ・日臨技の前渡金：878 万円

- ・岐阜県からの助成金：180 万円（現時点で不透明である）
- ・岐阜市からの助成金：20 万円
- ・参加費：900 名×5000 円=450 万円
- ・企業協賛金：300 万円
- ・合計：1828 万円

②支出

前学会の支出は 15,265,595 円であったが、見積もりからすると増額の可能性がある。

【今後決めていく必要のあること】

① 学会テーマ

補助金申請時の事業計画書、趣意書作成、ポスター作成（来年度の三重県学会で必要）などが必要になるため、遅くとも 2025 年 5 月までには決めていただきたい。

② 岐阜県イベント・コンベンション誘致推進事業費補助金の申請済み

必要な情報、以下

- 1 事業計画書
- 2 予算書の写し（原本証明をすること。）
- 3 規約等

→今年度末に申請が受理されたら来年度にこれらを提出

③コンベンション委託会社の決定

現在ピックアップ中

④企業協賛の趣意書作成

期限は不明であるが、企業の予算申請の時期を考えるとなるべく早い方がよい？

⑤Instagram開設と運営

来年度の三重県学会には必要？（三重県はすでに開設していた）（2025 年 10 月）

⑥その他の実行委員の決定

広報担当、展示担当、情報交換会担当、（オブザーバー？）

（岡村会長）

今後の準備は実行委員会にて進めてもらい、協議や相談あるいは決済事項は理事会にて行うという流れで進めていきたい。

3. 定時総会資料について〔日比庶務部長〕

- 4/24 常務理事会にて「召集通知」「議決権行使書」確認・承認の予定
- 更に今後、1 号議案、2 号議案、3 号議案の作成依頼をさせていただく
- 令和 7 年度定時総会招集通知について（案）（抜粋）
 3. 議 事：第 1 号議案 令和 6 年度事業報告
 - 第 2 号議案 令和 6 年度決算報告

第3号議案 令和6年度監査報告

第4号議案 令和6・7年度役員補選の承認について

第5号議案 パートタイム職員就業規則新設

第6号議案 拡大研修会・岐阜県医学検査学会講師料規定変更報告

第7号議案 岐臨技会員講師料金規定変更報告

4. 提 出：第1～5号議案をご検討の上「出席票 兼 議決権行使書」に記入し、返信用封筒にて岐臨技事務所へご提出ください。

(施設所属の会員の方は施設でとりまとめて提出をお願いします)

第6号議案、第7号議案に関しては理事会決裁事案であり理事会承認済のため報告のみとなります。

(検討・確認内容)

- ・第4号議案は、岐阜地区理事の補選についての報告を受けて対応。補選を行う場合の手順および総会当日の役割担当として選挙管理委員長（玉置和仁/中濃厚生病院）が必要か。
- ・第5号議案については会長より説明をしていただく方向で良いか。
- ・第6.7号議案については学術部からの報告で良いか。

(荻谷)

(岐阜地区の意向が前提となるが) 諸々の手続きが必要であるため、現行のままで補選は不要ではないかと思われる。

(岡村会長)

岐阜地区の決定待ちであり、現時点で特に意見がなければこのままで良いのではないかと思われる。理事に補選の申し出が無かったため欠員で進めていく旨を連絡し、第4号議案(案)は無しとする。また、第5号議案については会長からの説明とする。

(森本部長)

第6号議案、第7号議案に関して議案名の変更希望があり、判明次第報告する。

以上より、定時総会の議事で第4号議案はなし、第5号議案は会長より説明、第6号議案と第7号議案は森本部長より報告ということになった。

4. 日臨技報告 [菊地参与]

資料：日臨技（第7回理事会：20250322）報告事項より、重点事項を抜粋して報告

【報告事項】

2. 医学検査及び JAMT マガジンの電子化について（予算削減を目指した動き） R8.1 月号より、紙面からデジタルブックへ変更。医学検査は一般公開、JAMT マガジンは会員のみへの公開。
3. 検査と健康展について この先も在り方は要検討とした上で、継続実施

4. 生涯教育履修証、委嘱状等のダウンロードについて 輸送費高騰のため、会員 HP からダウンロード対応とする。
 5. 都道府県技師会における災害対応に関する整備進捗状況について：
岐臨技としての対応を協議していく必要があるのではないかとと思われる。多くの都道府県では行政と調整している。
 10. 地臨技理事会視察要望について 横地会長から、地臨技理事との意見交換を行いたいとのこと（Web or 現地）。
 11. 日本医学検査学会について
 - 1) 2025 年 5 月 10 日-11 日：第 74 回日本医学検査学会（大阪国際会議場）、事前参加登録受付中
 - 2) 2026 年 9 月 26 日-27 日：第 75 回日本医学検査学会（幕張メッセ） ※IFBLS2026 と共催
 - 3) 2027 年 5 月 22 日-23 日：第 76 回日本医学検査学会（出島メッセ長崎）（岡村会長）
- 災害について、岐阜県技師会としての在り方を今後も検討していく。

5. 令和 7 年度日臨技中部圏支部医学検査学会「支部シンポジウム企画」依頼について

〔岡村会長〕

【企画の趣旨】

日本の災害医療体制は阪神淡路大震災での教訓を糧に構築され、災害拠点病院の設置や DMAT(災害派遣医療チーム)が整備された。その後も、東日本大震災、熊本地震、そして昨年の能登半島地震と経験し、今も復興と再生が続いている。近年では災害に対し行政だけでなく、国民や 企業・各種団体が積極的に被災地を支援する機運が高まり、発災時の自助・共助・公 助に関する国民意識は明らかに向上している。

日臨技も発災時に迅速な被災地支援を実現すべく、全国の会員施設へ災害対策の進捗を啓発するとともに、各都道府県技師会と行政との連携強化を推進している。

臨床検査は医療機関において患者状態の管理に必須であり、発災時でも重要性は変わらない。臨床検査機能をどこまで持続するのか、人的支援や避難所など医療機関以外での活動、会員支援として被災住宅などのへの支援など災害に備えて取り組むべき事項は多い。

また、さまざまな組織がターゲットとなるサイバー攻撃は増加傾向にあり、医療機が被害にあうケースも報告されている。患者の命を扱う医療機関にとってサイバー攻撃対策は、災害に備えると言っても過言ではない。

今回の支部シンポジウムでは、「能登半島地震の経験から学び、南海トラフに生かす」を根幹に、サイバー攻撃対策も交えた学びのあるシンポジウムにしたいと考えております。候補のテーマによっては、施設というよりは県技師会としての視点でお話していただきたいものも含まれています。

【テーマの候補】

- ① 大規模災害時に向けた支援人材育成について
- ② 実災害から学ぶ、支援する側の心得
- ③ 臨床検査技師 DMAT 隊員から学ぶ「我々に出来ること」
- ④ 「復興・再生」の現状。未来に繋げるために (石川県希望)

- ⑤ 災害リスクにそなえた BCP の構築
- ⑥ サイバー攻撃に備えた IT-BCP の構築
- ⑦ 「被災しました、支援してください」と言われたときに
- ⑧ 来るべきその時に向けて我々は何ができるのか
- ⑨ その他（趣旨に沿うものがありましたらご提案ください）

岐阜県技師会に対して、⑥「サイバー攻撃に備えた IT-BCP の構築」についての参加依頼がきている。支部シンポジウムの回答期限が4月中旬であったため常務理事会後に会長、副会長、学術部長、参与にて検討を行い、⑥「サイバー攻撃に備えた IT-BCP の構築」とすることに決定した。各病院のシステム障害対策に関するアンケートを作成し、各県各施設担当者から回答を頂き、そのアンケート結果をもとに討論内容を詰める。

アンケート原案作成、中部支部各県への依頼は菊地参与に一任する。

シンポジストは次期中部圏支部学会関係者から選出することにした。

各事業部

【精度管理事業部】[渡邊部長]

特になし

【広報宣伝部】[市川部長]

特になし

【渉外部】[荻谷部長]

特になし

【学術部】[森本部長]

1. 決算承認の件について

・病理部門研修会：

2月22日（土）、修文大学にて開催、参加人数78名

内容は、新たな化学物質規制試行と認定病理検査技師試験に向けて

参加費：県内会員5,000円、非会員10,000円

予算577,980円、決算599,259円（岐臨技負担：予算7,980円、決算4,259円）

2. 謝金変更の件について（提案内容）

・講師料（医師）について、50,000円（案）を50,000円以下に変更する。

・新たに精度管理事業として、実行委員（企画運営まとめ）4,000円、実務委員（試料作製など）3,000円を支給する。

・実技研修会において、講義+実技指導を実施した場合は講師料+実技料を合わせたものとする。

3. 学術部門員募集について

学術部門員募集の案内を定期便にて発送。近年、学術部門員希望者が少なく、また、新型コロナウイルス感染にて WEB 開催となり繋がりが少なくなっている状態である。

4. 2024 年活動記録について

各部門研修、中部圏支部研修会、新人サポート研修会、拡大研修会、検査と健康展など以上の内容について、賛成多数で可決された。

各地区からの報告

【岐阜地区】

特になし

【西濃地区】

特になし

【東濃地区】

- ・ 2/28 に東濃地区総会を開催

【中濃地区】

特になし

【飛騨地区】

* 3/16 に第 62 回岐阜県医学検査学会を飛騨世界生活文化センターにて開催

- ・ 一般演題 14 題、学生演題 5 題
- ・ 市民公開講座では、飛騨市にあるハイパーカミオカンデ施設長（東大教授）による講演にて、一般市民の参加が 40 名あった。

<収支報告> 収入：280,000 円、支出：648,503 円

（岡村会長）

参与より県学会収支報告が赤字決裁であることについて問題提起された。県学会は参加費、企業献金では開催予算が不足するため予算案の段階で赤字予算案を作成している経緯がある。学会に関しての問題点等につき今後も検討を進めていく

その他

- ・ 特になし

以上

議長 岡村 明彦 印

議事録署名人 酒井 美穂 印

議事録署名人 山口 明彦 印